

# 図書館長・研究者としての オープンアクセスへのスタンス

---

羽渕裕真  
茨城大学図書館

# 自己紹介

羽瀧 裕真 (はぶち ひろまさ)

職位：茨城大学 学術研究院 応用理工学野 情報科学領域 教授  
副学長(情報統括・セキュリティ)/情報戦略機構長/図書館長

専門：情報通信工学・情報ネットワーク分野  
光無線・可視光通信, 移動体通信(センサーネットワーク含), 高度交通システム (ITS)の通信方法, 地上波デジタル放送の伝送方法など

学会：IEEE(Institute of Electrical and Electronics Engineers),  
電子情報通信学会, 信号処理学会

Web : <https://rainbow.cis.ibaraki.ac.jp/>

Mail : [hiromasa.habuchi.hiro@vc.ibaraki.ac.jp](mailto:hiromasa.habuchi.hiro@vc.ibaraki.ac.jp)

# 一研究者としての私見

## ● 研究論文や研究データをオープンに公開することについて

- ✓ オープンアクセス(OA)の「研究の継続的な発展を促しつつ人々が科学的知見に触れる機会を増やす」という考えに賛同でき、できることならオープンに公開することに賛成
- ✓ そもそも研究成果は論文や発表して公開することが前提、手段は要検討(オープンサイエンスにも資する)
- ✓ 電子ジャーナル誌の高騰に起因する資料入手の困難さの解消の可能性

## ● 研究論文等を公開した経験について

- ✓ 博士論文が国立国会図書館で公開されたのがはじめて(紙媒体論文が多かったため)
- ✓ APCを支払って電子ジャーナル上でオープン化した経験はない(あまりにも費用が高かったと感じて)
- ✓ そもそもオープンジャーナルしか選択肢がないところに投稿した経験あり

## ● 自身の属する分野・コミュニティのOAへの受け止め方について

- ✓ 論文投稿はサイトライセンス型/サブスクリプション型(定期購読者, 加入者)である場合が多い
- ✓ データ付きジャーナルも増加しており、そのデータを利用した新たな研究も展開している
- ✓ IEEE Xploreなどでは国際会議も含めサブスクリプション型(キャンパスライセンスもあるが・・・)
- ✓ グリーンOA(セルフアーカイブ)化が推進されている部分もある
- ✓ 学会では収益構造の変化を求められるので大いに検討されることであろう

# 図書館長としての私見(1)

## ● 大学で行われた研究成果は、広く公開する方向

- ✓ 専門家集団にしか理解できないものであってもハードル無く公開することによって、別の専門家集団との情報共有やその分野に興味がある人に訴求できるのではないか（大きな意味でオープンサイエンスへ）
- ✓ 機関リポジトリでの公開は、社会に対して大学の研究力を示すことになるのではないか
- ✓ 大きな意味で論文盗用などが無くなる方向になるのではないか（CCのような権利保護の新たな形の模索）

## ● 研究データの公開はできるものから

- ✓ データ付きジャーナルにすることによって、ジャーナルの公正性を示すことにもなる
- ✓ 研究データを全て公開というよりも取捨選択が必要ではないか（ある意味、ノウハウ的なデータの公開は考えものであるという考えもある）
- ✓ どのような形で蓄積し、どのように公開するのか、誰が実施するのかを大いに検討が必要

## ● OAは図書館の問題ではなく、大学組織全体の問題

- ✓ OAやオープンデータの話は、一図書館が担うにはあまりにも大きな課題
- ✓ 大学組織として担うには、図書館主導、研究・産学官連携機構/情報戦略機構と強連携の必要
- ✓ 何のためにOA/オープンデータかを考え、オープンサイエンスや新たなイノベーションを誘引することにあるならば、それを実現するカラクリが必要（単なるOA化からの脱却）

# 図書館長としての私見(2)

## 国立大学法人茨城大学研究データポリシー

(学術論文のオープンアクセス化も広義には研究データ公開・利活用の一部)

### 研究成果としての学術誌論文の公開

オープンアクセスポリシーも

#### APC(Article Processing Charge)補助

- 転換契約(ゴールドOA論文)  
電子ジャーナル毎にOA枠を設ける  
枠外はAPC割引
- 機関補助  
枠外のOA化希望論文への補助？  
英語添削費用や投稿費用の補助？  
(年度毎に枠の検討)
- 学会補助  
学協会からの補助が望める論文誌もある

#### 組織的にセルフアーカイブ

- グリーンOA論文  
著者最終稿を機関リポジトリに掲載可能な論文(図書館にて調査可能)
- 過去の論文  
過去グリーン論文遡及(Researchmapの掲載論文を対象に調査か?)
- 機関の論文  
オンライン紀要の出版ツール、  
博士学位論文の制度的公表メディア

#### 研究データマネジメント

- 論文に紐づくデータ  
オープン/グリーンペーパーの研究データの管理とオープン化
- デジタルアーカイブデータ  
本学所有貴重本のデジタル史料化(図書館バーチャルツアー)
- その他の研究データ  
研究者個人ベースで管理？  
機関としてデータを管理？

オープンアクセス誌へ、オープンアクセス論文

機関リポジトリ(JAIRO-Cloud)へ

研究データの組織的管理(公開/非公開も)

オープンアクセスへのスタンス (第71回国大図協総会「研究集会」2024.7.10)